

高しょうポンカンの台木について (第2報)

坂元 三好・桑波田 竜沢

(鹿児島県果樹試験場)

SAKAMOTO, M., and KUWAHATA, R.
Studies on the Rootstocks of the Ponkan

高しょうポンカンは一一般にカラタチ台木と不親和であることは知られており、現在では各種の台木が使用されている。鹿児島県では、通常ユズが使用され、台湾ではサンキツが主として台木として使われている。



ユズ台のポンカン サンキツ台のポンカン

当果試ではこれらを含めた8種類の台木類について比較試験を行ってきたが、前報(第23号)の若木時の生育状況に続き、成木時(20年生)の状態について報告する。

I 試験方法

(1) 供試樹 F2428系で1951年カラタチ台木に接木し、1952年春、各種台木を1本ずつ根接し、1953年春ほ場に定植した。

(2) 供試台木品種 ユズ、サンキツ、シークワシヤ、タチバナ、サツマキコク、大紅ミカン、クレオパトラ、コズの8品種。

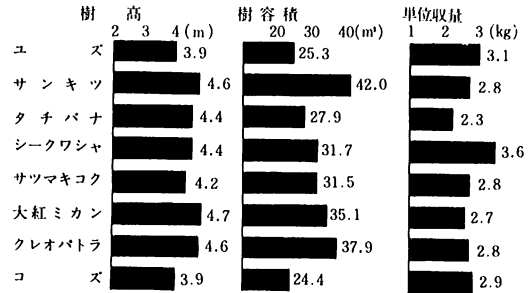
(3) 配列 1区1本の4連制

(4) 植栽距離 5.4×5.4m

(5) ほ場条件 砂質壤土、耕土2m以上

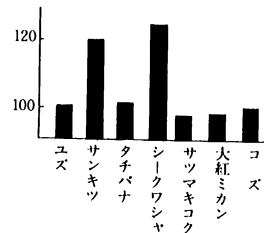
II 結果と考察

(1) 樹容積 ユズ台に比較して、クレオパトラ、サンキツ、シークワシヤ、大紅ミカン台が大きく、他の台木はユズ台と大差はなく、毎年同じ傾向にある。樹高はユズ台がもっとも低く、他の台木はすべて4m程度である。



第1図 台木別樹容積と単位当り収量

(2) 収量 45年までの樹当りの総収量はユズ台にくらべてサンキツ、シークワシヤ台が多い傾向にあり、他の台木はユズ台と大差はない。単位容積当りの収量で比較すると、ユズ、シークワシヤ台が他の台木よりも優れている。



第2図 台木別総収量の比較(ユズを100とする)

(3) 大果歩合 ユズ、クレオパトラ、大紅ミカン台は果実が大きく、タチバナ台がもっとも小さくなる傾向にある。

第1表 台木別大果収量歩合(M級以上果)

台木名	40年	41年	42年	43年	44年	45年	平均
ユズ台区	29.0	64.1	75.1	43.4	46.6	61.8	58.3
サンキツ台区	38.4	43.2	75.0	61.7	57.4	63.1	56.5
タチバナ台区	14.8	19.6	57.9	58.5	51.6	37.9	40.1
シークワシヤ台区	32.0	44.5	76.7	68.9	65.7	51.9	56.6
サツマキコク台区	35.9	34.4	71.9	68.3	66.1	56.9	55.6
大紅ミカン台区	48.1	43.5	71.0	65.1	58.7	60.9	57.9
クレオパトラ台区	40.6	33.6	80.8	60.3	69.6	65.6	58.4
コズ台区	36.8	31.1	65.0	58.5	69.1	53.0	52.3

(4) 果実の品質 クエン酸含量はユズ、大紅ミカン台でもっとも高く毎年同一の傾向を認めたが、他の台木では一定の傾向を認めない。可溶性固形物含量は台木間に一定の傾向を認めないが、タチバナ台がやや高い傾向にある。

第2表 果実の糖酸含量

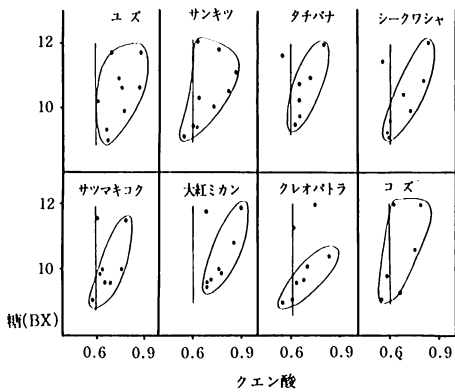
台木名	糖 (BX)			クエン酸 (%)		
	37年	40年	45年	37年	40年	45年
ユズ	8.69	9.28	11.7	1.27	0.66	0.88
サンキツ	8.11	9.42	11.8	1.05	0.60	0.76
タチバナ	8.89	9.50	11.9	1.18	0.62	0.80
シークワシャ	8.83	9.18	12.1	1.05	0.59	0.83
サツマキコク	8.36	9.89	11.5	1.13	0.63	0.78
大紅ミカン	8.57	9.55	11.9	1.21	0.68	0.88
クレオパトラ	8.59	9.13	12.1	1.07	0.60	0.74
コズ	—	9.16	12.0	—	0.55	0.79

第3表 葉中含有成分表

台木名	(%) N	(%) P	(%) K	(%) Ca	(%) Mg	(PPM) Mn	(PPM) Zn
ユズ台	3,282	0.126	1.62	2.26	0.26	21.3	22.0
サンキツ台	3,161	0.130	1.61	2.38	0.26	16.8	22.6
タチバナ台	3,126	0.129	1.56	2.21	0.24	20.7	24.1
シークワシャ台	3,176	0.125	1.57	2.58	0.28	26.1	23.6
サツマキコク台	3,095	0.130	1.74	2.74	0.27	12.2	23.8
大紅ミカン台	3,021	0.127	1.74	2.33	0.24	15.9	24.5
クレオパトラ台	3,055	0.127	1.50	2.88	0.26	23.4	24.2
コズ台	3,223	0.134	1.54	2.31	0.25	19.5	22.6

まとめ

以上樹の発育、収量、果実の品質などからみると現在使われているユズが、樹が比較的小さく、単位収量がたかく、大果歩合もたかいので、今のところもっとも適しているといえよう。



第3図 台木別果実の糖と酸

(5) 微量元素欠乏 結果期にはいって、サツマキコク、大紅ミカン台区でマンガン欠乏症状が激しく発生したが生育には支障はなかった。ユズ、サンキツ、タチバナ台区では発生が軽度であった。シークワシャ、クレオパトラ台では微量元素欠乏症状を認めなかった。